FIWC

Friends International Work Camps
関西委員会

定例委員会報告　2001.3

参加者：チャ・ソンチョル、柳川義雄、松田浩江、まや、たろう、福田きよ子、入澤隆一、村津ゆきみ、的野博記、槻美代子、本多智子、岡村和彦、井上浩孝、坂口一道、西村麻里、中西章文、山口貴士、松本モト、神田寛、藤山恭子、呉忠明、宮田武宏、以上22名
（2001年3月17日交流の家にて）

○中国キャンプ

日程：2001年2月7日～2月17日
場所：広州楊坑（ヤンケン）医院にて（村人数43人）
参加者：日本から5人、韓国から14人
ワーク内容：かまどを改修して、ガスレンジを設置した。また、食堂を作り、天井を張ったりペンキを塗った。予定していたワークは終了しました。［入澤隆一］

○**ソンチョル：**村人の反応はどうやった？
○**入澤：**とても友好的だった。僕らが村に来た初めての外国人だった。交流があるのはHANDA（HANDA IDEAというハンセン病快復者たちの世界組織の中国支部のような存在。快復者の村の医療や自立応援をするための組織。広州に本部があり、常勤者は5名。ライ菌を発見したハンセンとライ病のために尽くしたダミアン神父のハンとダを合わせて命名。）と政府の役人ぐらいで、歓迎してもらった。
○**柳川、入澤：**言葉が通じなかったけど本多さんが助けてくれた。彼女のおかげで資材購入
が楽になったし、政府の役人との交渉もしてくれた。
○**本多：**日本みたいに正規の値段が決まってないので、半分くらいを目安にして交渉した。（一同、すげえ）
○**的野：**中国ではハンセン病はどのような形で教育されているのか？差別はあるのか？
○**柳川、入澤、本多：**差別はあった。ハンセン病に対する教育はあまりされてないようだ。言葉もよく分からなかったので、社会的な状況は詳しくは分からない。村の人に「一番つらかったときはどの時代か？」と尋ねたら、文化大革命の時代、と答えられた。治療もままならなくて、そのときの後遺症が今も残っているそうだ。
○**的野：**今後はどうするの？
○**柳川：**実際行ってみると分からないことがまた増えた。沢山やりどころがある。やりたければなんでもできそう。是非継続していきたい。今年の夏にでもやりたい。また、今回心残りだったのは、中国人の学生たちと一緒にキャンプできなかったことだ。やろうと思えば何とかなるので、やっていきたい。
○**柳川：**中国キャンプへのカンパを呼びかけたところ、20万円の目標が35万円集まりました。詳しい報告は、次月にいたします。とりあえずカンパしてくださった方のお名前を報告します。値段交渉の努力もあって、35万円のうち、10万円ほどを資材費として使いました。残額はもう一度ヤンケン村でキャンプをするときの資材費と報告書の作成費にさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

○カンパ協力者名簿（合計349,083円、順不同、敬称略）

佐藤里香、井久保その、加島宏、田尻定、辺直子、神谷理史、石井雅子、野浩一、崔久明、川島保、高田基尚生、杉浩二、別府敏裕、湯浅進、萩野満寿美、坪川寛子、大西公子、藤山恭子、藤岡羊子、久島文一、喜田清、鈴木千賀子、松田浩江、巽重雄、藤澤美恵子、藤澤美恵子・抱一、市川喜代子、賀好宣捷、西村麻里、野中弘充、玉田さゆり、服部雅行、丸泉綾子、松本八重子、藤澤寧都、加藤芳幸、柳川義雄、岸野春子、今村忠生、福島智幸、青谷由美、樋口邦彦、青山法義、吉田紀史、中山幸作、坂口一道、関隆晴、山上憲一、垣内、宮田武宏、劉孝一、白政裕、金かんじ、朴正根、金和子、神田寛、山口貴士、金京美、尹浩子、文盛優、文貞愛、梁武充、柳奈緒美、朴恵一、細川清、荒矢繁、福山祥之、岡田彰雄、鈴木泰幸、下田直樹、清水義広、浅坂賢二、濱崎正信、松本裕子、瀬古口清一、青木洋、武中奎雄、吾郷俊郎、古賀彰、寺田耕作、中西彰文、吉森晃子

○交流の家から

○**松本：**交流の家の台所を新しくしようと思います。キャンパーの日程に合わせて、1泊２日程度で設置したい。また連絡します。
○**福田：**お花見をしませんか？
4月の初めのほうにやりましょう。詳しくは入澤隆一まで
○**福田：**交流の家維持費のカンパに振り込んでいただいた方、ありがとうございました。
辻征雄　熊倉格　柴地暁子（敬称略）

○資料の設置

91年キャンパーの岩岡正道さんの卒業論文（平和の具体的建設ワークキャンプ先駆者ピエール・セレゾールからFIWC関西の日韓合同ワークキャンプまで）をファイルにして設置しました。歴史的経緯などがわかりやすくまとめてあるので、是非読んでみてください。岩岡さん、事後承諾という形になりますがご容赦ください。［宮田武宏］

○FIWCの会計について

青木麻理さんから、関川智子さん（98年の韓国キャンプから）に引き継がれます。［入澤隆一］
○**福田：**会計を一人だけに任すのではなくて、監査する役割の人を置くべきではないか？ 会計状況が一目でわかるようにするべき。
○**入澤：**役職を1年ごとに交替していけばいいんじゃないか？
○**宮田：**じゃあ、4月から翌年3月までの年度制ということでいいね。
○**青木：**委員会費の入金ありがとうございます。
川本了造、イム・スミン、伊藤政彦、井木澤稔、金重紘二、美和子、田尻定、崔久明、杉浩文

○韓国キャンプ

2月19日から23日まで、ワークリーダーの志賀純子と下見に行ってきました。現在、二つの村(ソンシム、ハミャン)が候補に上がっています。どちらの村も人口100人程度、子どもの数は15人程度で、世帯数は34世帯。キャンパーの受け入れ人数は100人くらい可能。トイレ、キッチン、宿舎の条件もほぼ同じです。ワークの内容は、ハミャンは側溝を板でふさぎ、その後でセメント舗装。これは仕事量が多くて、技術が必要な仕事で、大人数でするのが少し難しいです。ソンシムのワーク内容は、村から畑まで続いている道のセメント舗装。仕事量は多いが、出来るところまでで構わない。女の子も一緒にできそう。キャンプは皆で楽しんでやることが大切だ、という考えからジョナフェとの話し合いでは、ソンシム農場でやるのがいいのではないかという意見もあるが、次の下見までにFI、ジョナフェ双方の意見を聞いて決めよう、ということになった。ハミャンは、郡に交渉に行くと、お金は出ることになっている。ソンシムは次の下見のときに交渉に行く予定だが、おそらくお金は出るだろう。帰国後、3月3日下見報告会を行ないました。(交流の家にて　参加者7名)[藤山恭子]

宮田:人数が多いので、キャンプを2つに分けてはどうか？という意見がでてるみたいやん。

藤山:このままだと、FIとジョナフェは合計で100人程度になってしまう。名前も覚えられなかったりして、後にまで続く関係を作ることが難しくなる。最初は多くても仲良くなれる方法を考えていたが、あまりにも多すぎるから、ある程度の人数で仲を深めていきたい。

宮田:たしかに、人数が少ないほうがいいかも。中国キャンプも少なくて感じるところがたくさんあったようやし。

藤山:ジョナフェは学生サークルなので、分けることなど考えられないという立場。

　ただ、ジョナフェの中から中国キャンプに行った子もいるので、交渉できると思う。

宮田:キャンプを準備していて思うことはある？

藤山:もっとハンセン病を理解したい。韓国へ行く前にも、日本の状況を知りたい。

　状況を知ることで、ジョナフェの子ともハンセン病について話し合えるし。

○ベビー用品の提供をお願いします

辺直子さん(93年韓国キャンプから)の子供が昨年10月に産まれました。虫明潤星(ユンソン)君という男の子です。お古のベビー用品を譲ってほしいです。何か使えそうなものがある方は、下記の連絡先に一度連絡を下さい。B型ベビーカーがあれば嬉しいそうです。[西村麻里]

○キャンプ会計報告　(1999年5月～2001年3月)

〔収入〕		〔支出〕	
年会費	539,000	発送費	582,300
本代	305,330	キャンプ文集	26,000
カンパ	47,000	立替	80,000
キャンプ残金	17,500	印刷関連	140,650
立替返金	80,000	用紙／文具代	60,896
関東発送費	4,000	ファックス購入	28,000
交流の家部屋代	34,000		
		99年末キャンプ	50,000
		払込手数料	630
計	992,830	計	1,002,476
<会計残高>	**293,680**		

なお現在、97年北朝鮮キャンプ準備費として、
貸し出し 318,000　回収済み 30,000
△288,000　という状況です。

次回の定例会は4月21日(土)19:00～交流の家にて

4月の定例委員会の担当は、槻(けやき)美代子です。
文責:宮田武宏

FIWC関西委員会　委員長　入澤隆一

FIWC関西委員会
631-0042 奈良市大倭町2-33 交流の家
※PDF版では、個人の電話番号などの連絡先を掲載しておりません。
　お知りになりたい方は、下記までメールにてお問い合わせください。
PDF版制作:茂木 亮　mog@mognet.org

モグネット http://www.mognet.org ワークキャンプの情報あります